

〈事例報告6〉「意見文を書こう」（国語総合）

1 実践にいたる背景

高等学校国語科の学習においては、教材の読み取りに関する教授型の指導が多く行われる一方で、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の領域の学習が十分に行われておらず、生徒たちは自分の主張を展開するという経験が少ない。そして、大学入試の小論文や大学入学後のレポートなどで初めてそうした活動を求められ、困難を感じるという状況にある。しかし、他者の意見を理解する力とともに、自己の主張を他者に伝える力が今後いつそう求められるのは間違いない。

また、昨今の教育をめぐる状況の中で、「アクティブ・ラーニング」という言葉が盛んに聞かれ、主体的・協働的に学習に取り組んでいくことが重要だとされている。

そこで本実践においては、書く活動を主に据え、自らの主張を他者に伝える力（論理的思考力を備えた表現力）を育むとともに、グループ学習などを積極的に取り入れ、主体的・協働的な学びの場を形成することを目的とする。

2 指導目標と評価

(1) 身に付けさせたい力（論理的思考に関わる目標）

自分の考えを、正確に、説得力をもった形で相手に伝える力

(2) 関係する学習指導要領の指導事項

論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。〈国語総合B(1)イ〉

(3) 関係する論理的な思考の活動

趣旨や主張を把握し、評価する（③把握・評価）

(4) 評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめようとしている。	論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめている。	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。

(5) 評価方法と評価基準表

ア 評価方法 ワークシート I の記述の分析

イ 「書く能力」の評価基準表 (ループリック)

観点	評価A	評価B	評価C
①問題の読み取り	「孤独」について定義しており、かつ筆者の主張に対する賛否を明らかにしている。	筆者の主張に対する賛否を明らかにしている。	筆者の主張に対する賛否を明らかにしていない。
②説得力	定義に即した客観的で適切な根拠を挙げている。	客観的な根拠を挙げている。	客観的な根拠を挙げている。
③一貫性	主張に一貫性がある。		主張に一貫性がない。
④技術	自分の意見に説得力をもたせるための対比、例示、想定した反論への反論等の表現の工夫を効果的にしている。	自分の意見に説得力をもたせるための対比、例示、想定した反論への反論等の表現の工夫をしている。	対比、例示、想定した反論への反論等の表現の工夫をしていない。

3 単元の指導計画

(1) 言語活動と教材

ア 言語活動

与えられた課題に対する 800 字程度の意見文を書く。

イ 教材

「顔という現象」(鷲田清一, 東京書籍『国語総合 現代文編』), 「ニューズウィーク紙日本版」

(2) 単元観・教材観

ア 単元観

説得力のある主張をするときに重要であるのが、主張と根拠の結び付きである。今回の学習ではこの点に着目させ、適切で客観的な根拠を挙げることによって、自分の意見が説得力のあるものになることを実感させたい。

イ 教材観

「顔をまなざす」という身近で具体的な事象から、現代社会における人間関係という抽象的で普遍的な問題へと論を展開する典型的な評論文で、論理展開も明確である。

(3) 指導と評価の計画（配当時間5時間）

次／ 時間	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準, ◆評価方法, *努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
1次 (2時間)	<p>①筆者が述べる〈顔〉と私たちがふだん考えている「顔」との違いに注意しながら本文を読む。</p> <p>②〈顔〉と顔面の違いをまとめるとともに〈顔〉が表現しているものが何かを考える。</p> <p>③「〈顔〉への渇き」を現代の人々が考えている理由について話し合う。</p>	<p>①自分の生活に置き換えながら「顔」について考えさせる。</p> <p>②具体と抽象，換言などの文章の構造を意識しながら，〈顔〉と顔面の対比を通じて，筆者の主張を読み取らせる。</p> <p>③現代人は直接的なコミュニケーションに飢えているという筆者の主張について，自身の体験を踏まえながら話し合わせる。</p>	<p>◇知識・理解 ◆記述の点検（ノート） *具体と抽象，換言，対比などが表れている部分に傍線などを引かせ，本文の論理構成及び内容の理解を促す。</p>
2次 (3時間)	<p>①コミュニケーションに関連する文章（NEWSWEEK 日本版 2011年1月12日のコラム）を読み，筆者の主張に対する自分の意見を書く（ワークシートⅠ）。</p> <p>②意見文を読み比べ，最も説得力のある文章はどれかを考える。</p> <p>③ループリック（資料イ）を基に相互評価をし（ワークシートⅢ），それを踏まえて再度自分の文章を振り返る。</p>	<p>①適切な問題設定をし，論拠に基づいて自分の意見を述べているか，論理の展開や構成を工夫して，より自分の意見が伝わりやすい文章を書いているかを常に意識させる。</p> <p>②意見文を3点読み（資料ア），どの意見文が一番論理的で分かりやすいのか，そしてそれはどこが分かりやすいのか，分かりにくい意見文はどこを改善するとよいのかをグループで協力して考えさせる。 ・付箋を利用して自分の考えをグループで共有させる（ワークシートⅡ）。</p> <p>③他者の評価を踏まえた上で，どうすればより説得力のある文章を書くことができるのかを考えさせる。</p>	<p>◇書く能力 ◆記述の分析（ワークシートⅠ）</p> <p>◇関心・意欲・態度 ◆記述の確認（ワークシートⅡ） *グループ内の意見を参考に考えさせる。</p> <p>◇関心・意欲・態度 ◇書く能力 ◆記述の分析（ワークシートⅢ）</p>

4 学習活動の実際

(1) 学習に取り組む生徒の姿

今回の単元においては「読む→書く→話し合う（グループワーク）→相互評価→自己評価」という順序で活動をし、多くの生徒が意欲的に学習に参加していた。中でも、どの意見文が最も説得力があるかを考えるグループワークにおいては、よい意見文の条件を考え、その基準をもって意見文を読むという主体的姿勢がうかがえた。そしてグループワークにすることによって、クラスメイトと関わりながら学習を進めていく様子や分からないことを教え合う様子が見られた。相互評価においても、決して安易に称賛することなく、積極的に改善点を指摘していた。

(2) 「身に付けさせたい力」の実現状況

ア 評価基準表を基にした教員による生徒の評価状況

	評価A	評価B	評価C
①問題の読み取り	23.1%	71.8%	5.1%
②説得力	10.3%	51.3%	38.5%
③一貫性	79.5%		20.5%
④技術	5.1%	94.9%	0%

① 問題の読み取りについて

自分の立場を明らかにして述べることについてはできているが、問われていることに対する適切な用語の定義や問題設定をすることができている生徒が少なかった。

② 説得力について

今回の研究の中で一番の課題となった。自分の主張を伝えるために、結論に結び付く根拠を挙げてはいるものの、その根拠と結論の結び付きが弱かったり、客観性に欠けていたりする生徒が少なかった。しかし、論理的で説得力のある表現をするには、この項目こそが重要である。

③ 一貫性について

一貫した意見を書けた生徒が多かったが、2割程度は途中で論点がずれてしまったり、主張が曖昧になってしまったりしていた。

④ 技術について

具体例を用いる、反論を想定するなどの意識はほぼ全ての生徒に見られたが、挙げる具体例が適切であるか、反論に対する反駁は十分にできているか、という点については改善の余地がある生徒がほとんどであった。

イ 生徒の振り返り

- ・ 人に自分の意見を伝えるのは難しいけど、伝わったときにうれしい。
- ・ 皆でどの意見文がよいかを探す中で、自分が気付かない点を指摘する人がいて勉強になった。
- ・ 付箋を使うと発言するよりも楽に自分の意見を言えてよいと思った。
- ・ 自分だけで考えるよりも人と話しながら考えた方がいい案が浮かぶ気がする。
- ・ 人に説明していく中で自分の考えが自分自身で分かっていった気がする。
- ・ 相互評価をしてから自分の文章をもう一度読むと、自分の意見文にどんなことが足りていないの

かよく分かった。

- ・ 書いている時は自分で「いい！」と思って書いてあるのに見返してみるとよくない点がたくさんあった。
- ・ 誰もが納得できるような根拠を挙げるのはとても難しいと感じた。
- ・ 客観的というのがポイントだと思うが、自分の文は主観的だと相互評価で書かれて、そう思って見直すと確かにそうであった。
- ・ 一つのことを違う視点から見ると多くのものが見えてくると思った。

5 おわりに

今回の研究を通じて二つの成果が得られた。一つ目は生徒の主体的活動による学習の充実である。教員から生徒への一方的な教授ではなく、生徒同士がペアやグループで学習することによって内容理解が深まることを生徒は実感していた。他者と協力して行うことによって自分が思い付かないような考えに触れることや分からないところを教え合うことで理解を深めることもあるが、それに加えて、生徒の振り返りに「人に説明していく中で、自分の考えが自分自身で分かっていった気がする」とあったように、他者に説明する中で同時に自分の思考が整理されたり深化したりするのである。これも理解の深まりの一因であると言える。そしてこれは教授型の授業では得がたい効果である。

二つ目は「論理的思考力を備えた表現力」の実態把握と向上である。生徒の自己評価を分析したところ、評価が低かったのは、②説得力、④技術に関する項目であった。特に根拠と結論の結び付きにおける妥当性・客観性と、予想される反論に対する適切な反駁を行うことに欠けている回答が多かった。この二項目に共通して必要である力は、自己を客観的に見る力である。自分の考えを分かりやすく説得力のある形で伝えるためには、自己を相対化しつつ複数の視点から一つの事象を捉えた上で論述する必要がある。しかし、他者から見る自分の意見という視点をもつことなく、ひたすら自己の主張を繰り返すような意見文を書く生徒もいた。しかし、そのような生徒の多くは振り返りの活動の中で、自分の書いた意見文が主観的であることに気付いた。彼らが今後表現をする際には、客観的な視点をもつことが期待される。

「アクティブ・ラーニング」という言葉が盛んに聞こえる現在、生徒たちをいかに主体的・協働的に学習に向かわせることができるかが、私たち教員の課題である。今回の研究を通じ、生徒自身が学び、生徒同士で学び合うことの大きな効果を実感した。今後の指導においても継続して内容や手法を工夫しながら、どうすれば生徒たちの学習効果が高まるのかを模索していきたい。そして、論理的思考力の育成の観点からは、生徒が自己を客観的に見ること、そして自己と異なる視点など複数の観点から物事を捉えることを強調して指導していくことが必要であろう。

1年 組

番 氏名

「現代人はソーシャルメディアや携帯電話などのハイテク機器を使うことで孤独になっている」という別紙の文章(NEWSWEEK日本版2011年1月12日コラム)を踏まえ、これに対する立場を明らかにして、自分の考えを理由とともに600～800字程度で述べよ。

Handwriting practice grid with 32 horizontal lines and vertical dotted lines.

[1]

[2]

[3]

孤独とは

孤独とは

孤独とは

結論

↑
だから

↑
だから

↑
だから

ハイテク機器を使うことで、

ハイテク機器を使うことで、

ハイテク機器を使うことで、

根拠

1年 組 番 氏名

◇評価

	項目	評価
①	問題の読み取り	
②	説得力	
③	一貫性	
④	技術	

◇アドバイス

◇評価

	項目	評価
①	問題の読み取り	
②	説得力	
③	一貫性	
④	技術	

◇アドバイス

◇評価

	項目	評価
①	問題の読み取り	
②	説得力	
③	一貫性	
④	技術	

◇アドバイス

◇評価

	項目	評価
①	問題の読み取り	
②	説得力	
③	一貫性	
④	技術	

◇アドバイス

◇振り返り

今回の取り組みに意欲的に	取り組めた	5	4	3	2	1	取り組めなかった
説得力のある意見文の書き方が	分かった	5	4	3	2	1	分からなかった

自由記述（分かったこと・できたこと・感じたこと・今後の課題等）

「現代人はソーシャルメディアや携帯電話などのハイテク機器を使うことで孤独になっている。」という別紙の記事を踏まえ、これに対する立場を明らかにして、自分の考えを理由とともに600～800字程度で述べよ。

[1]

私はこの記事の意見に賛成で、現代人はソーシャルメディアや携帯電話などのハイテク機器を使うことで孤独になっていると思う。なぜなら、これらのハイテク機器を使うことで、自分のやりたいことが何でもできてしまうからだ。

ハイテク機器を使えば、音楽やゲーム、マンガなどを楽しむことはもちろん、インターネットを使うこともできる。また、今では、スマートフォン一つで、世界中の誰とでもつながることができるため、とても気軽に他者とつながりを持てる。

だが、何でもできるということには弊害もある。私は部屋にこもって一日中ハイテク機器をいじって過ごしてしまったことがある。スマートフォンで一日中友達とLINEで会話をしたり、インターネットで共通の趣味を持つ人と交流したりと、その時は孤独を感じなかった。それは、ハイテク機器を使うことで誰とでもすぐに連絡が取り合える状態にあったからだろう。しかし、ハイテク機器を通じて他者とやりとりをすることがあっても、直接人と関わらないのなら、やはり孤独なのではないだろうか。なぜなら、実際はハイテク機器を相手に会話をしているのであって、他者と本当にコミュニケーションを取っていることにはならないと思うからだ。

だから、私はこの記事の意見に賛成で、孤独を感じないためには直接他者とやりとりをする必要があると考えた。ハイテク機器を相手にコミュニケーションを取るのではなく、実際に相手の顔を見ながら話をするのを大切にすべきなのだ。

[2]

私はこの記事の意見に賛成で、現代人はハイテク機器を使用することで孤独になっていると思う。そもそも孤独とは、他者とのつながりを感じるができなくなる状態のことである。そして、他者とつながるとは「双方向的なやりとりが成立している」状態だと思う。

確かに携帯電話などのハイテク機器は便利で、いつでもどこでも簡単に連絡を取り合うことができる。例えば電車に乗っている時に別の場所にいる友人と連絡を取らなくてはならない時、携帯電話があるからこそそれが可能になる。

しかし、その一方でハイテク機器によってコミュニケーション能力が低下す

ることも見過ごせない。携帯電話でメールをする時に画面を見ながらするようなコミュニケーションでは、相手の雰囲気などを感じることはできない。そのようなコミュニケーションが増えることによって、対面して行うコミュニケーションの機会が減り、その結果、相手の雰囲気などを感じ取る総合的なコミュニケーション能力が衰えてしまう。

また、便利なあまり、ハイテク機器に依存しすぎてしまうことも良くない点だ。いつでもどこでも誰とでもつながることができるハイテク機器は非常に魅力的であり、利用の仕方次第で世界は無限の広がりを見せる。ソーシャルメディアを使えば、自分と共通の趣味をもった人と出会ったり、海外にだって友人ができたりするかもしれない。それゆえ、利用する人の中には、ハイテク機器を利用する時間が増え、日常生活に影響を及ぼしてしまう人も存在する。

以上のように、ハイテク機器を使うことで「双方向的なやりとりが成立しなくなる」ため、私はハイテク機器を利用することにより現代人は孤独になっていると考える。

[3]

私はこの記事の筆者と同じく、現代人はハイテク機器を使用することで孤独になっていると考える。なぜなら、孤独とは、直接的で精神的な他者とのつながりがない状況を指し、ハイテク機器を使用することで他者との直接的なやりとりが疎かになり、精神的なつながりがなくなっていると感じたからだ。

電車に乗っている時にスマートフォンを触る人をよく見かける。隣に友人が座っている時でさえ、それぞれが異なるインターネットの世界に身を置いている場面もある。恐らくスマートフォンを触ることで、他者とのつながりを求めているのだろう。だが、その時彼は、実際に隣にいる他者との直接的なやりとりを疎かにし、機械を通しての間接的なやりとりをしていることになる。

たしかに、ハイテク機器を携帯することによって、独りぼっちだという感覚は少なくなるかもしれない。いつでも・どこでも他者とつながれるからだ。だが、それらの機器を介して、他者の気持ちを正確に理解し、精神的につながることはできない。なぜなら、メールで送られてきた文字からだけでは、他者の正確な気持ちが分からないからだ。他者と対面したときの表情、声の調子などを実際に感じなければ、相手の気持ちを理解することはできないのだ。

しかし、現代人はハイテク機器に頼りすぎて、直接的な他者とのやりとりを疎かにし、その結果精神的なつながりをなくしてしまった。私たちは直接他者と対面して他者の感情を読み取り、精神的につながる機会を失ったのだ。よって私は、現代人はハイテク機器を使用することで孤独になっていると考えた。

		評価A	評価B	評価C
①	問題の読み取り	「孤独」について定義しており、かつ筆者の主張に対する賛否を明らかにしている。	筆者の主張に対する賛否を明らかにしている。	筆者の主張に対する賛否を明らかにしていない。
②	説得力	定義に則した客観的で適切な根拠を挙げて主張している。	客観的な根拠を挙げている。	客観的な根拠を挙げていない。
③	一貫性	主張に一貫性がある。		主張に一貫性が無い。
④	技術	自分の意見に説得力をもたせるための対比、例示、想定した反論への反論等の表現の工夫を効果的にしている。	自分の意見に説得力をもたせるための対比、例示、想定した反論への反論等の表現の工夫をしている。	対比、例示、想定した反論への反論等の表現の工夫をしていない。